

# 国 労 ち ば

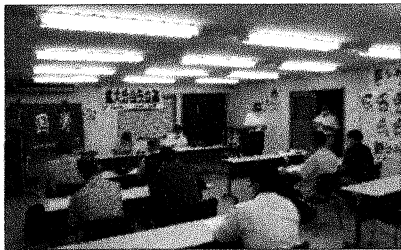
国鉄労働組合  
千葉地方本部  
発 行 井村 好博  
編 集 安田 正浩  
【電話】  
JR 2930 FAX 2934  
NTT 043(238)5963  
FAX 043(238)5967

いざ集え！  
団結の温もりで  
守り抜く国労へ

## 職場から声を上げていこう

7月21日、地本会議室にて拡大分会長会議が開催された。  
井村委員長は全国大会等情勢報告も含めてあいさつした。

加藤書記長は「夏季一時金獲得の取り組みの総括」及び「新型コロナウイルス対策」について、コロナを口実とした低額回答などグループ会社含めた回答と「感染症における申し入れ」について報告した。



続けて北嶋業務部長

「新たな会社施策の提案等について」みどりの窓口の閉鎖を含めた要員削減・経費削減提案は働く者や利用者に犠牲を強いる物もあり「安全と利便性」の低下を招く施策については撤回を求める必要があると報告した。

嶋田組織部長からは「組織強化・拡大の取り組みについて」分會活動強化に向けた再編成や地本との連携強化、組織拡大へ社員代表選挙、組合説明会や労働組合の必要性を訴える取り組みが報告された。

参加した分會からは、▼年休申し込みがタブレットに。理由も私用はダメ。この間年休の申込みの仕方は社員間で決めてきたが、これからは勤務担当が理由や貢献度で決めるらしい。▼コロナワクチンの職域接種が始まった。

だが本体社員のみ。エルダー出向も社員であり差別では。▼若年退職。仕事も出来る社員が病んでしまった。不平・不満を聞いて改善へ。▼タブレットがないければ仕事出来ないのに教育がない。▼柔軟な働き方や副業施策。総括センターなどに乗務員の若い社員は不安がっている。反対の立場で運動をお願いする。

▼コロナで消毒など仕事が増えても収入は減る。▼職場に手袋が配布されていない。利用者から貰うお金で感染リスクがある。▼オリ・パラによる終電延長で作業規制、中止となり今度は作業を計画しるなど二転三転で計画を立てられない。▼蔓延防止措置が出されているが駅頭宣伝行動の予定は。など報告が出された。

地本からは、タブレットでの年休申込みは東日本本部に要求する。柔軟な働き方について解明要求を提出している。職域接種は全員分ある訳ではない。丁寧な説明が必要。タブレットは様々な問題が発生。現場から声を上げて。手袋も職場から要求を。終電延長での駅の超勤ありきの勤務は問題

だと申し入れた。▽駅頭宣伝は8月16日に予定。コロナ感染により中止する時は改めて連絡する。と、回答した。

最後に、全国大会で千葉機関区分会の木村忠義さんが副委員長に就任、リモートでの大会規約の改正、代議員の選出方法の変更となる規約改正が成立。選出の詳細は決まっていない旨の説明がされた。

定期地方大会を10月16日に千葉県教育会館で開催する旨を報告し、閉会した。

## 運動の裾野を広げていこう

7月15日、16日、交通ビルにて第90回定期全国大会が開催された。今回は、直接参加とリモート参加の2通りの参加方法となった。

千葉地本からも加藤書記長が代議員として参加し発言してきた。

本部の松川委員長は「修善寺大会から35年が経つが、5年ビジョンで示す通り組織の存亡をかけた組織強化・拡大運動を展開しなければならぬ」とあいさつした。

加藤代議員は「ワン

マン運転の拡大で沿線自治体へ要請に足を運びつながりを持つ、『利用者アンケート』の取り組みでは駅頭宣伝行動の他、政党や労働組合にも協力いただき運動を強化してきています。非常事態宣言が出される中でオリ・パラ開催に対し、生命と権利を守るために中止の表明と政府へ声明を出すべき。賃上げや一時金の交渉の行方はグループ会社への波及効果が大きく、国労の交渉内容はグループ会

社など労働者の生活に影響する。労働者の声が会社へ届きづらい中、要員削減と効率化が進み、厳しい状況だが、国労に加入した仲間も、勇気に報いるためにも、職場・地域から運動の裾野を広げられる取り組みの強化に努めていく」と発言した。

佐藤書記長は「組織の強化・拡大をはじめ課題は多いが、分會運動の活性化を図る中から、組織の強化・拡大につなげていく。全国で団結してみんなで一歩前に入る運動を作っていく」と集約した。

### 第75回国労千葉地本定期大会

日時：2021年10月16日10時開始  
場所：千葉県教育会館305号室

今年4月に日高本線・鶴川ノ様似間が廃線。JR北海道は16年8月豪雨災害で東鹿越・新得間が不通のまま富良野・新得間の廃線方針だ。年間十億九千万円の維持費を地元が負担し存続かバス交換の二案提示▼「北の国から」は忘却の彼方へ押しやられるのか▼私、全国唯一の「分駐所」新得保線支区落合分駐所で勤務していた。零下30度木々が破裂する。積雪は隧道の出入口を越える。立ち往生の列車を救援に行った「救援列車」が救援される事態も。そんな狩勝峠治線の保安に携わっていた。石勝線開通前だ▼日高本線は「海岸線侵食」で「国土喪失」を国鉄・JR北海道が行政に代わり守っていたという▼高速道路はドンドン税金で延伸。車の数より熊の方が多いと揶揄される▼「公共交通」が次々経済効率に巻き込まれる。全国で思慮が浅い「バス転換」▼なぜ、三千万の「アクアライン」を八百円で利用できるのか。受益者でなくとも税金注ぎ込んで「社会的価値」を皆で共有している証▼「鉄路」は共有の「価値」を持つ国民の共有財産だ。剥がせば戻る事はない(S&K)



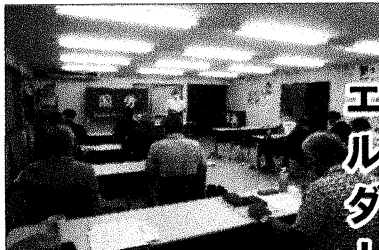
# 政治を変え、暮らしを変えよう 7・4千葉県集会

7月4日、千葉県教育会館にて「政治を変え、くらしを変えよう7・4千葉県集会」が開催された。

講演では、市民連合の福山氏が「オスプレイ、軍事予算、原発、貧困と格差の是正に向け、野党共闘・連合・市民団体が一つになって頑張ろう」と訴えた。

続けて「オスプレイ来るな、いらぬ住民の会」の武藤さん、千葉県教職員組合の櫻井書記長、「旨いもん食堂かどや」の澤永社長が、地域や働く者を代表して現状報告した。

特別報告では、全日建の小谷野書記長が労働条件の底上げの取り



# 安心して働き続ける労働条件を エルダー対策会議

7月10日、地本会議室においてエルダー対策会議が開催された。

昨年はコロナの影響もあり、断念したが、組合員から会議を希望する声があったことから、感染対策をしっかりと取り組み行なった。

来年度60歳を迎える

組合員は14名で、事前に対象者には再雇用・希望職種のアンケートを取り、馴染みのない職種の職場実態や仕事の中身、また人事との面談におけるやり取りなども交流した。

またエルダーとして仕事をしている、メディア・物流・警備の仲間から職場実態や仕事の中身を具体的に話してもらった。

乗務員からJESS

に行った仲間からは苦勞した話や改善を求めた話などもされたが、周りの仲間に支えられ何とかやっているという報告もされた。

最後に今のエルダー制度自体問題が多く、低賃金、一人勤務問題、休憩場所すらないなど改善を求める声も多々ある。

65歳まで安心して働き続けられる労働条件の改善が急がれる。

組みと刑事弾圧の報告と署名活動への協力を訴えた。

立憲民主党千葉県連代表の生方衆議院議員は「野党が共闘し候補者を一本化すれば勝利は不可能ではない。軍事費に金をかけず賃上げする。憲法を守れば国民の生活は良くなる。政権を交代しよう」と決意を述べた。

最後に植竹事務局長が「自民党候補に勝つため統一候補が不可欠。課題を総選挙に結びつけ選挙に行こうと呼びかけよう」と行動提起した。



# どこの空にも オスプレイはいらない!!

7月10日、オスプレイが木更津市に飛来してから1年を迎える日となったこの日、木更津駅西口にて、近隣住民・市民のオスプレイはいらないの声を轟かせ行動が「オスプレイ来るな! いらぬ! 住民の会」主催で取り組まれました。

梅雨の晴れ間で気温が30度を超える中でも、コロナ感染防止に万全の対策を実施して行われました。

各地から150名を

「木更津の空にも・沖繩の空にも・佐賀の空にも・日本のどこの空にもオスプレイはいらない!」と声を轟かせました。

ご存じのように、木更津基地はアメリカ軍の基地でそこを日本の自衛隊が借りている状況が続いています。

木更津市は沖繩県と同じようにアメリカ軍の意向を受けた様々な理不尽な要請を甘受せざるをえない状況を抱えています。

更に軍都木更津から

の脱却がいまだに出来ない状況となっており、多くの市民が、危険性を感じながら不安を感じての日常生活を余儀なくされています。

様々なところで、様々な形でオスプレイはいらないの声を上げていかなくてはなりません。

今後も地元の平和と民主主義を守る取り組みにかかわっていきたいと思います。

木更津分会より寄稿

## 闘うネコ伝説 ～第4章～

ウチニャン（内房線代表）とソトニャン（外房線代表）はワンマン運転拡大のウワサ話が飛び交う中で情報収集を進める傍ら地域での取り組みの具体策を練っていました。

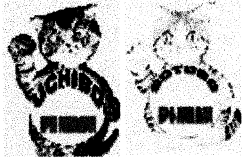
寄り合いを毎月一回欠かさず開催しながら、地域や沿線の取り組みを検討し合いました。

ワンマン運転拡大の情報が錯綜する中での取り組みで具体的に進めることの難しさを抱えながらも、一歩ずつ確実に取り組みを進めるべく奮闘しています。

闘いの時は迫っていることは、日に日に痛感している中、焦りも感じながらの毎日ですが、地に足を付けた取り組みの展開を目指して討論を重ねています。

総武・中央の各駅停車の駅では「みどりの窓口」の閉鎖と改札の無人化計画が出され、利用者への啓蒙・宣伝活動を展開しました。

京葉線では、「働かされさま」の検証の意見交換が取り込まれる中で、今年度中に「みどりの窓口」閉鎖と業務委託の計画が出され、急遽利用者への宣伝活動を開始しました。



次章へつづく...